

映画「靖国 YASUKUNI」に対する週刊新潮の報道
と自民党国会議員及び右翼団体の介入並びに政府・文部科
学省のこれを放任する言動に対し嚴重に抗議する。

2008年4月12日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部
全 国 常 任 理 事 会

李纓監督の映画「靖国 YASUKUNI」が、相次いで、映画館に
よる上映中止になっている。これは、新聞報道などによると、自民党政
治家による政治的干渉と右翼団体の執拗な脅迫といやがらせによるもの
である。

この映画は、製作者の李纓監督が10年にわたって見つめてきた靖国
神社の境内の現実を、「ナレーションを一切排除」して映し出している。
8月15日は大勢の参拝者で境内は喧噪に包まれ、旧日本軍の軍服を着
込み、「天皇陛下万歳」と叫ぶ人々や、靖国の支持者による追悼集会に
抗議して殴られて血まみれになった若者を警官がパトカーに乗せて連れ
去って行く状況や自民党の稲田明美国会議員による靖国参拝を呼びかけ
ているシーンが写し出される。靖国神社の「御神体」の日本刀を模して
製作された「靖国刀」の刀匠に対する李監督のインタビューも織り込ま
れている。

この映画は、李監督の眼を通じて、靖国神社をめぐる日本人の一つの
心情状況を描いた作品であって、それを見る者に戦争犯罪者が合祀され
た靖国神社の境内における異様な喧噪、これを生み出している神社を支
持する人々、それに抗議する人などの行動などから、靖国神社をどのよ
うに考えるべきかという今日的な問題を提起している。それ故に、この
映画製作に文化庁所管の独立行政法人・日本芸術文化振興会が750万
円の助成金を出したのである。

ところが、この映画の08年2月上旬封切りが公表された直後の07
年12月20日号の週刊新潮がこの映画を「反日である」と決めつけて、
それが「日本の助成金で作られた」と報道した。そして、この報道を口
実に、自民党の稲田明美衆議院議員が文部科学省の内局である文化庁に
対して週刊新潮の報道の事実確認と映画の視聴を要求し、08年3月1
2日に自民党、民主党の議員、秘書など約80名による試写会が開かれ
た。これを契機に、右翼団体による「反日映画」と「この映画の製作に
国の助成金が使われた」という街頭宣伝が東京を中心に展開され、上映

を決定していた映画館に対する中止要求が脅迫的に行われるようになった。さらに、自民党の有村治子参議院議員は、内閣委員会において、政府に対してこの映画に対する助成金の交付が国益を損なうかのような質問をして、さらなる政治問題化した。

こうして、上映を予定していた映画館は、相次いで、右翼団体の妨害のおそれを理由に上映中止、上映撤回をするようになっている。

この一連の事実を見ると、ここには、右翼団体と自民党政治家と文部科学省によって言論・表現の自由、思想・信条の自由という民主主義の根幹を揺るがされているという極めて重大な問題があるといわなくてはならない。

第1に、公正であるべき言論機関の一つである週刊新潮が、この映画を「反日的」と決めつけて、靖国派とでもいうべき靖国神社公式参拝を唱える人々を挑発する偏った報道をしたことである。

第2に、この報道を口実に自民党の国会議員が、この映画に対して不当な政治的介入をし、右翼団体を激励して、映画上映の妨害活動を助長してきたことである。

そして、第3に、文部科学省とその内局である文化庁が、特定の自民党国会議員の要求を容れて、試写会を開かせるなど、この映画に対する政治的介入の道を開いて、しかも、その後の妨害行為による相次ぐ劇場の上映中止、撤回を野放しにしていることである。

わが治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟は、かつて、治安維持法の苛烈な弾圧に抵抗しつつ、主権在民、言論・表現の自由など基本的人権と民主主義を要求して闘い、日本国憲法を生み出す力となった数十万の人々の歴史的顕彰とその闘いが故に侵された名誉と人権の回復を求めて活動している組織として、このような表現の自由を封殺する行為を断じて黙視することはできない。それは、映画製作者と映画館、劇場の上映行為という表現の自由のみならず、国民一人ひとりが見たい映画を見ることができないという基本的人権の根本にかかわる問題である。

我々は、言論機関としての新潮社に対して猛省を促すとともに、政府が右翼団体に対する威力業務妨害罪など刑事罰を含めた上映妨害行為の取り締まりをすることを要求する。

そして、われわれは、この映画の上映に対して不当な政治的介入と干渉を行った自民党国会議員に対する国民的批判の世論のいっそうの喚起に努めるものである。

上記のとおり決議する。

以上